

作業状況



供用中のトンネルにおいて、足場を必要とする部位での作業には、高所作業車を使用する事が一般的で、中央部付近の作業を行う場合はバスケットがセンターラインからはみ出すヒューマンエラーにより、特に大型の一般車両等と接触するリスクがあった。
これまではバスケットの位置決めは操作者の勘に頼っていたが、バスケットの端部がはみ出していないかの確認を「見える化」した。

レーザーポインターをバスケットの端部に設置し、端部の位置を見える化した。
それなりの効果はあったが、作業員・誘導員からレーザーポインターでは照射点なのでバスケット上からは見えづらいとの問題提起があった。

第二回目の見える化



バスケットのセンターライン側にレーザーポインターを設置し、路面のセンターラインをはみ出していないかをバケット上から確認する事にした。一般的なレーザーポインターは点状に照射されるものに対し、線状に照射されるものを使用する事で、バケット上からの視認性が向上し、バスケットのはみ出し確認のヒューマンエラーの発生が低減された。